

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

| | |
|---------------|---------------------------------|
| 事業所番号 | 2470501939 |
| 法人名 | 合資会社 三重福祉会 |
| 事業所名 | グループホーム 白山 |
| 所在地 (電話番号) | 津市白山町南出954 (電話) 059-262-5230 |
| 評価機関名 | 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 3 月 12 日(水) |

【情報提供票より】 (H20年1月31日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 18 年 3 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 14 人 | 常勤 9人, 非常勤 5人, 常勤換算 9.8人 | |

(2)建物概要

| | | | |
|------|---------|-----|-------|
| 建物構造 | 木造平屋 造り | | |
| | 1 階建ての | 階 ~ | 1 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-------------------|----------------|---------------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 30,000 円 | その他の経費(月額) | 24,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(120,000 円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 期間一年毎2万円償却 | |
| 食材料費 | 朝食 | 400 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 200 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4)利用者の概要(1 月 31 日現在)

| | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 13 名 | |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 4 名 | | | |
| 要介護3 | 8 名 | 要介護4 | 3 名 | | | |
| 要介護5 | 名 | | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 | 82 歳 | 最低 | 53 歳 | 最高 | 98 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|------------|
| 協力医療機関名 | 倭診療所 カガミ歯科 |
|---------|------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後2年を経過した事業所は、近隣住民との交流も盛んに行われ信頼関係も構築されている。職員のほとんどは地元の人で、利用者の信頼も厚く良好な関係である。事業所は1棟1ユニットであり、2棟が向かい合って建てられている。利用者は玄関をあけて渡り廊下を通り、自由に行き来して交流をおこなっている。事業所の敷地内には畑があり、畑作業の好きな利用者は花や野菜づくりを楽しんでいる。収穫時には皆で芋ほりや野菜を取り入れ、おやつや食事の時に美味しく頂いている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | <p>昨年の外部評価では、要改善項目はなしであった。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者・管理者・職員も評価の意義を理解しパートも含めた全職員で取り組んでいる。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年5月に1回開催されたが、その後定期的に行われていない。地域代表・利用者・家族・行政の職員と幅広く呼びかけ、定期的に運営推進会議を開催し、課題等について検討され、サービスの質の向上に向けて取り組まることが望まれる。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>白山便りを定期的に発行し家族に送っている。家族の面会時には積極的に声かけを行い、利用者の状況を話し合ったりして話しやすい雰囲気をつくり、利用者や家族の相談や苦情が聞き出せるように取り組んでいる。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の清掃行事などに積極的に参加をしている。また、事業所の行事を行うときは回覧板でお知らせをして、多くの方々に参加をしてもらうように取り組んでいる。</p> |

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 代表者の強い想いで、現在「人生(時間)の半分は自分の為に後の半分は人(社会)のために」を理念とし、それをグループホームの方針に具体化している。 | | |
| | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 新入職員には、入社時に理念について詳しく説明をしている。そのほか、毎日のミーティング・カンファレンスの中で理念について話し合い実践に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の自治会にも加入して、清掃行事等に参加をしている。また、事業所で開催する野上り祭りは自治会の回覧板で案内し、多数の方々に参加していただいている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 運営者及び職員は、サービス評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組み質の向上を図っている。(昨年の評価では要改善はゼロであった) | | |
| | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、昨年5月の一周年記念祭の後に開催された。 | ○ | 運営推進会議には、利用者及び家族代表、自治会長や民生委員等地域住民代表、行政の職員等幅広く呼びかけ、会議の意義や役割を十分に理解して参加が得られるよう働きかけることが望まれる。そして2ヶ月に一度開催される事に期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 白山総合庁舎の福祉課職員と、成年後見人等について頻繁に連絡を行っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 定期的に白山便りを発行し、日常の暮らしぶり等報告をしている。また、面会にみえた家族には話しかけを行い報告をしている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関には意見箱が置かれている。また、家族の面会時には声かけを行い、家族や利用者の相談や苦情を聞きだせるように心がけている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 事業所内の異動はないが、止むを得ず退職する場合は、新入職員の紹介をきちんと行い早く馴染んでもらうようにしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会に参加した職員は報告書を作成し、カンファレンスの時に発表し全職員が共有できるようにしている。 | ○ | 全職員が一律ではなく、それぞれの段階に応じた研修計画をたて、法人内外の研修を受けられるよう図られることが望まれる。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に加入して、地域の同業者との交流を図っている。また、法人内の他地区のグループホームとの交流を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 事前にグループホームを見学して、利用者と一緒にゲームを楽しんだり、お茶やおやつを楽しんだりして馴染んでもらっている。入居時には馴染みの衣類等もってきてもらうと共に、孤立しないように職員ができるだけ接する機会を多くするように支援をしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 農作業の得意な利用者より教えてもらい、花や野菜づくりをして収穫時には皆で楽しんで採り入れている。また、戦時中の苦しかった頃の話聞きながら、現在の幸せを喜び合っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のかかわりの中で、希望等の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族や知人等から情報を得るようにしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の要望、事前に調査したアセスメントを基に、本人がどのように暮らしたいかを知り、職員全体で話し合い介護計画の作成に活かしている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 入居時に利用者及び家族より聞いて作成したアセスメントをもとに、1ヶ月間の介護計画書を作成し、その計画の遂行状況・効果などを評価するとともに、その後の状態変化や本人・家族の要望を聞き3ヶ月ごとに見直しを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や家族の要望に応じ、自宅訪問やお墓参り等の支援を行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望するかかりつけ医となっている診療所より2週間に一度の往診を受けている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 終末期のあり方について、本人や家族及び関係者と話し合い方針を決めている。状態の変化があるごとに意思の確認を行い支援につなげている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | トイレの誘導時における職員の対応は、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように配慮をしている。また、個人情報の保護について、職員は事業所の方針に同意しサインをしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 買い物や散歩等、一人ひとりの希望や状態にあわせて支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と一緒に摘んで来た、ふきのとうやつくしなどを、利用者の好みの方法で調理をしている。盛り付け・食後の後片付けも利用者と一緒にやっている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は職員が一方的に順番を決めるのではなく、利用者の希望を確認して入浴支援を行っている。畑作業で汗をかいたときはシャワー浴の支援も行っている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 洗濯物たたみ・食事の準備・食後の後片付け・テーブル拭きなどを、それぞれ得意な人をお願いをしている。また、畑作業の得意な人には花や野菜づくりを教えてもらい皆で作業をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩や買い物などは、利用者の希望に沿って行っている。畑作業の好きな利用者には、日射病にならないよう気をつけ支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は利用者一人ひとりのその日の気分や状態を観察することで、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に2回(うち1回は消防の協力を得て)避難訓練を行っている。 | ○ | 次回の防災訓練時には夜間の災害を想定した避難訓練を実施されると共に、地域の人々の協力が得られるよう自治会行事や運営推進会議等を通じて働きかけを行うことが望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養分が偏らないように気をつけている。不定期ではあるが栄養士にメニューをみてもらいアドバイスをもらっている。水分量も一人ひとりに合わせた支援を行っている。健康チェックに気を配り体重の増減なども参考に栄養状態に配慮している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアの飾りつけは、利用者の作品や写真などが控えめに飾られ、落ち着いた雰囲気を醸しだしている。窓際の廊下には椅子が置かれ、ガラス越しに見える四季折々の風景を楽しむようにしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には仏壇やタンスを持ち込み、家族の写真などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫されている。 | | |